



毛越寺常行堂 二十日夜祭

1月20日、伝統の毛越寺常行堂二十日夜祭が開かれ、今年1年の無病息災や五穀豊穡を祈りました。二十日夜祭は常行堂にまつられる農作物の神「摩多羅神」の祭礼。暖冬の影響で雪のない景色の中、総勢300人の献膳行列がJR平泉駅前を出発。たいまつを明りを先頭に下帯姿の厄男や鬼子と呼ばれる幼児を背負う行列が、ほら貝や太鼓の音を響かせ同寺までの約1キロを練り歩きました。境内では、厄男らが勇ましい掛け声とともに燃え盛るたいまつを激しくぶつけ合う火たきのぼりを披露。常行堂前では手にすると福が来るといわれる「蘇民袋」の争奪戦も繰り広げられ、境内は男衆の熱気に包まれていました。



舞い散る火の粉に福祈る

